

Future conference News 未来会議だより

令和7年4月1日発行

発行 栄東地区まちづくり未来会議

(TEL711-2203)

栄東地区まちづくり未来会議 検索



--令和7年2月21日(金)--

連町女性部健康ウォーク



心弾むモルック体験！



この日、日の丸会館でモルック体験会が開催されました。栄東連合町内会女性部では、健康ウォーク歩こう運動で市内の各地を訪ねてウォーキングしていますが、冬季間は雪道が滑って危険ということもあり、巷で愛好家が増えているフィンランド生まれのモルックを体験しました。

モルック愛好家の「北のモルニック」の3名のメンバーを招いて、大ホールに2面の試合コートを設定

して実施しました。まずは、簡単にモルックの基本的なルールやモルック(投げる棒)、スキットル(木製のピン)、モルッカーリ(モルックを投げる位置)、得点の仕組みなどの説明がありました。

最初は戸惑いながら投げている参加者ですが、みるみるうちに上達し、簡易なゲーム形式では、チームで、得点に一喜一憂し、勝ったときは拍手、ハイタッチで喜び合うなど、モルックの魅力に取りつかれたようです。1時間半余りでしたが、参加者35名にとって心が弾む体験会になったと言えます。

使用したモルックと室内用に用意した6畳間大の花ごぞ、養生用具は、栄東地区福祉のまち推進センターで購入したのですが、同センターは、モルックの手軽さ、楽しさ、そして健康づくりへの効果に着目し、令和7年度からは体験会や用具の貸し出しを準備し、栄東地区での普及を目指としています。



▲指導して頂いたモルック愛好家の3名

--令和7年3月13日(木)--

栄東連町の定期総会議案を審議

町内会長会議

この日、日の丸会館で栄東連合町内会の第4回町内会長会議が開催され、連合町内会役員と町内会長43名が出席し、直近の事業報告などがありました。

議案としては、5月8日に定期総会を開催しますが、感染症予防のため、各町内会代表1名の出席と委任状を活用して小規模に実施すること、また、総会に提出する令和6年度の事業報告、収支決算報告、令和7年度の事業計画、収支予算案などが提案されて、異議なく承認されました。定期総会の案内は、総会議案を作成して4月上旬には、役員、各町内会に発送される予定です。このほか、本年12月1日は、民生委員・児童委員の一斉改選にあたります。この

ため、オブザーバー出席の矢地・栄東地区民生委員・児童委員協議会会長から、今期で退任予定の委員や欠員の補充が必要なリストを提供され、8月を目途に各町内会からの推薦を依頼していました。町内会役員も担い手不足が懸念される中、候補選びは難航しそうですが、同会長は、「増加している高齢者の見守りは不可欠であり、安心して地域で過ごせるようにご協力を！」と呼びかけていました。



--令和7年3月8日(土)--

身近な会館で、



本格的な室内楽に感動



この日、日の丸会館で「シニア憩いの広場」として、札幌フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる本格的な室内楽コンサートが開催され、105名の聴衆がモーツァルトの名曲から、皆さんよくご存じの日本の歌などの演奏に酔いしれました。

これは、「寒い北国の冬をご近所で、みんながひとつの部屋・場所に集まって、エネルギーを節約し暖かい空間と時間を共有しよう」というウォームシェアとして始まった企画ですが、今回で11回目の開催となりました。昨年に引き続き、同管弦楽団のご協力で、ホルン、オーボエ、ピアノの独奏や弦楽四重奏

などの室内楽コンサートです。

ホルンが「ロマンス Op35 No.6(グリエール)」、オーボエが「千と千尋の神隠し」より「ふたたび」、ピアノが「瑠璃色の地球(松田聖子)」



▲高音の木管楽器・オーボエの独奏

「鐘(ラフマニノフ)」です。弦楽四重奏では、「アイネクライネナハトムジーク第一楽章」「北の国から」「となりのトトロ」「イツ・ア・スモール・ワールド」「天城越え」「川の流れのように」などオーソドックスなクラシックから、ジブリソング、演歌など多彩な構成です。最後のアンコールでは、この日の演奏者全員による「北国の春」の演奏で締めくくり、会場中に割れんばかりの拍手が響きました。

地域の会館で、本格的な生の室内楽演奏を聴く機会は滅多になく、1時間余りでしたが、バイオリンやホルン、オーボエ、ピアノなどの”本物”の音色に聴き惚れていました。参加者からは「本当に素晴らしい!」「感動しました」と絶賛され、主催者も大満足なシニア憩いの広場になりました。

--令和7年3月13日(木)--

超高齢社会必須の知識を学ぶ



福まち研修会



栄東地区の65歳以上人口は9,257名で、このうち75歳以上人口が5,223名に達しています。東区の要介護認定率が23%を超えることから、身近な地域に介護を必要とする方々が増えています。

栄東地区福祉のまち推進センターでは、毎年、住民向けの健康講座を実施していますが、今回は視点を変えて、住み慣れた地域で健やかにそして安心して

暮らしていけるよう、ニーズの高まっている介護保険について学ぶことにしました。この日、日の丸会館に集まった参加者は約50名で、「介護保険知って講座」と題して、元市の職員で福祉関係の経験が長い、長谷部・栄東まちづくりセンター長の講演で、介護保険の基礎知識を学びました。

同センター長からは、「地域包括支援センターは、介護保険で運営している札幌市の事業であり、介護保険を含めて積極的に活用して欲しい」、「要介護認定時の訪問調査には家族を同席するなど普段の生活がありのままに伝わるように」、「ケアプランの仕組みや事例に即した介護サービスの自己負担額の出し方」、「介護保険でできることできないこと」、「デイサービスとデイケアの違い」、「介護関係の主な施設や大まかな費用」などが解説されました。

会場からも活発な質問があり、介護保険の知識に対する潜在的なニーズの高さがうかがえました。この講座で令和6年度の事業は終了しましたが、福まちでは、令和7年度も、地区全体に様々な支えあいが広がるよう活動をしていくとしています。